

nasuheiseinomori-forest
那須平成の森 インタープリターの「忘れられないエピソード」

那須平成の森では、日々のガイドウォークや、施設内カウンターなどで、様々なお客様との出会いがあります。その中で特に記憶に残る、忘れられないようなエピソードを、インタープリターがイラストとともにご紹介♪

「展示のあれこれ」

那須平成の森の展示は更新型の手作りのものが多いのですが、来園されるお客様の展示に対する反応が様々で楽しい。例えば、「あら、これ刺繍でできた野鳥よ!」、「さわっていいんですか、これ?」、「これ盆栽みたいですが、ちゃんとした展示になっているのね」、「同じ大きさだけど木によって重さがこんなに違うんだ」、「四季の植物の飾り方が素敵ですね」、「流れる音楽が雰囲気に合って落ち着きます」、「森の中にカフェがあるんだ」、「本が落ちていて読めてうれしいです」などなど。博物館のようでそうではない、美術館のようでどこか違う、でも何となく面白い。そんな施設だと思っていだいでいることがとても心地よく感じます。(若林)

▼ガズミ(スイカズラ科)果実



▲触ってこの生き物が誰なのか想像してみよう

「獣の気配」



私が那須平成の森で働き始めて間もない頃のことです。2時間のガイドウォークでお客様を案内していた際、不意に森の奥から耳慣れない獣の鳴き声が!それはとても表現しがたいもので、私は「まさかクマが近くに?」と思い慎重に進んでいきました。そして、小さな沢に差し掛かり上流の方を見上げると——そこには小さなカモシカの姿があったのです。私は一気に緊張が解け、胸を撫で下ろしました。屋間に野生動物に会えることはまずないためとても印象に残っています。

子供の様でしたが、1頭で歩いていたのが気になりました。今も元気に暮らしているでしょうか。(西垣)



秋のプログラム実施しました



「森カフェ」

紅葉につつまれた「学びの森」を歩いて、おいしいコーヒーとランチを楽しむ「森カフェ」を実施しました。ガイドウォークと共に食事を楽しむという試みは開園以来初めて。

10月6日にプレスを招いて実施したモニターツアーが新聞各紙に掲載されたこともあり、参加者は定員いっぱいの大人8名。紅葉を楽しみながらそぞろ歩き、清森亭に到着すると黒田原駅前のコーヒー店「ラ・ディトント」さんがお出迎え。挽きたてのコーヒーと黒磯駅前のパン店「カネルブレッド」さんのランチボックスで至福の一時を。「是非、次回も」という声をいただき、無事に終了。自然を満喫しながらお腹を満たす醍醐味にあふれた「森カフェ」でした。(若林千)



「日本文化から見る、紅葉の森歩き」



今回の紅葉の森歩きでは「日本文化」をテーマに実施。昔の人の感覚に触れながら、自分自身の中にある「感性」に気づいてもらいたい。普段なかなか使わないものですが、それを意識することで現代の私たちにも受け継がれていることを実感してほしいという思いを込めて企画しました。

参加者の方からは「自然の中にこんなにたくさんの色があるなんて知らなかった」「普段は意識しない五感を使うことができた」などのお声をいただきました。実施した私自身も、鑑賞するだけでなく自然の魅力を再発見することができた時間でした。(西垣)



◀窓(紙で作った障子)を使って風景を切り取り、その中に今の自分の気持ちを表現。窓を通して四季の移ろいを楽しむだけではなく受け取り方も、日本独自の文化ではないでしょうか。

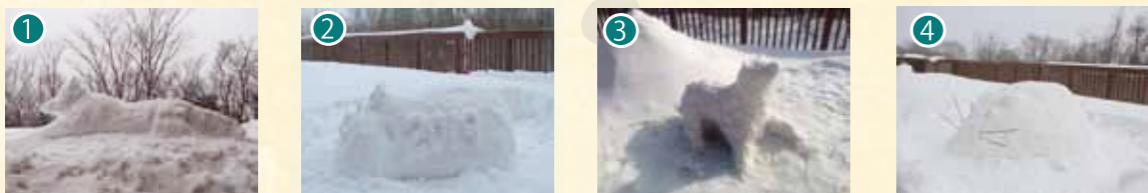
雪 + 創造 = 雪像づくり∞

例年1m近く積雪がある那須平成の森では、スタッフや来園者による雪像作りが恒例!その作り方を簡単にご紹介します。(中島)



- 1. 圧雪** 力を込めて押しながら雪の山を作ります。分担して行くと楽!
- 2. 造形** シャベルで削ったり水をつけてくっつけたり、形を作っていきます。私はこの作業が一番好きです。
- 3. 仕上げ** 余分な雪を払いながら、よく撫でてなめらかにします。完成!!

これな〜んだ? いきもの雪像ギャラリー



ミヨギ◎
 ㇁◎
 ㇂◎
 ㇃◎
 ㇄◎
 ㇅◎

インタープリターの調査 DE 注目!

その③「ドングリの実り具合」に注目!

那須平成の森では、昨年からのドングリ(ミズナラ)の実り具合を調査しています。具体的には、森の中に網を設置し、落ちてきたドングリをキャッチ。その量を計測するという方法で調査しています。ドングリは年によって多かったり、少なかったりします。この調査を続けることでその変化を統計的に把握でき、傾向も明らかになるのではないかと思います。また、ツキノワグマの動態との相関関係も考察していけるのではないかと期待しています。得られたデータはガイドウォークの解説等に活かされます。

今年は去年に比べて約10倍の量のドングリが実りました。来年はどうなるか?さらに豊作?それとも凶作?どちらにせよこの森にとっては大切なデータとなるでしょう。(菅原)



▲網に落ちたドングリを回収



◀ドングリの量を計測